

令和4年度「知事と市町長の円卓対話」（明和町）概要

- 1 対話市町 明和町（明和町長 ^{せこぐち} 世古口 ^{てつや} 哲哉）
- 2 対話日時 令和4年9月7日（水）14：15～15：15
- 3 対話場所 さいくう平安の杜 西脇殿（明和町大字齋宮 2800 番地）
- 4 視察場所 歴史ロマン広場（園路）、齋宮跡 1/10 史跡全体模型、
さいくう平安の杜
- 5 対話項目
 - （1）アフターコロナを見据えた観光施策の展開について
 - （2）史跡齋宮跡の「歴史ロマン広場、齋宮跡 1/10 史跡全体模型」、
「さいくう平安の杜」について
 - （3）「空の移動革命の推進」に関する連携について
 - （4）三重県地域連携部南部地域活性化局との連携について
 - （5）道の駅整備に向けた支援について
 - （6）米価下落に対する支援等について

6 対話概要

対話項目（1）アフターコロナを見据えた観光施策の展開について

（町長）

三重県予算では、令和4年度、観光施策に重点的に予算をつけて、より一層注力してくださっていることに対し、感謝申し上げます。

県の観光施策の一つでもある「持続可能な観光地づくり」を明和町としてもめざしております。その中でこの地ならではの歴史・文化、自然といった魅力的な観光資源の掘り起こしと磨き上げを平成31年に設立したDMO法人である一般社団法人明和観光商社や公益財団法人齋宮跡保存協会などの町内観光関連団体と連携し推進しております。

さらに歴史的つながりも深い伊勢市をはじめ、多気町でオープンした商業リゾート施設「VISION」などと、より一層連携し、アフターコロナを見据え、インバウンドをはじめとした誘客、滞在時間や消費の拡大を目指して取り組んでいきたいと思っております。

こうした各団体や地域との連携を通じ、アフターコロナを見据えた、インバウンド等の誘客を図り拠点滞在型観光を推進していくため、三重県からの支援もぜひお願いいたします。

そして令和6年のNHK大河ドラマは、齋宮・齋王が最も華やかだった平安時代

の「紫式部」が主人公になる予定など、明和町として齋宮跡を全国的にPRする絶好の機会が訪れようとしています。

すでに齋宮歴史博物館よりNHK大河ドラマプロデューサーに提案書を送付していただいておりますが、明和町が大河ドラマのロケ地等で取り上げていただけるようより一層のバックアップをお願いいたします。

また、明和町では、主に女性をターゲットにした取組、たとえば、竹神社前にカフェをオープンしたり、齋宮駅トイレを改修したりと徐々に行っています。今後は、これらをアピールしていくのに三重県の手も借りながら、一緒に取組をお願いします。

(知事)

観光は、三重県にとって非常に大事な施策の一つです。私が知事になって、観光予算も昨年度の12億円から24億円と倍増して取り組んでいます。

先日、「東海3県2市の首長会議」に出席し、その会議で周遊型の観光を各県が連携して取り組みをしていこうと提案をしました。コロナが収まってくれば、多くのインバウンド客が訪れます。その前に準備を進めて、多くの観光客に戻ってきていただくのが重要です。

また、その会議の中で話題になったのは、やはりNHK大河ドラマです。来年、「徳川家康」の放送が決定しており、三重県でも桑名や伊賀に光が当たります。令和6年放送予定の「紫式部」は、平安朝の話でもあるので、齋宮がぜひ取り上げられることを願っています。

それら大河ドラマ等も起爆剤とし、多くの方に来ていただける観光地として整備し、多気町にオープンした商業リゾート施設「VISION」で滞在する人が、そこから齋宮の地を巡ってもらえる選択肢の一つとなるように磨き上げをしていってください。明和町には、その素材はたくさんありますので、これから、人目を引くような魅力的な取組を協力しながら実施していきましょう。

対話項目(2) 史跡齋宮跡の「歴史ロマン広場、齋宮跡 1/10 史跡全体模型」、 「さいくう平安の杜」について

(町長)

史跡齋宮跡については、三重県において「齋宮歴史博物館」をはじめ、「いつきのみや歴史体験館」、「歴史ロマン広場」、「齋宮跡 1/10 史跡全体模型」、「さいくう平安の杜」と多くの施設を整備していただき、例年観光客や修学旅行生など多くの方が訪れる歴史・文化のスポットとして定着してまいりました。特に、コロナ禍においては、県内の修学旅行先として県内多数の小中学校に来ていただきました。また、

令和4、5年には「いつきのみや歴史体験館」の空調や照明の大規模な修繕を検討していただいております、大変感謝しているところです。しかしながら、そのほかの施設についても年々経年劣化が進行している状況です。

齋宮駅の北側に接している「歴史ロマン広場、齋宮跡 1/10 史跡全体模型」は、「齋王まつり」でも使用するなど活用させていただいておりますが、舗装、木橋、音声ガイドの経年劣化による故障が目立ってきており、明和町でも維持管理上の修繕はさせていただいたものの、抜本的な大規模修繕が必要と考えております。

また、「さいくう平安の杜」では、平成27年の開園当初から北側の芝生部分の排水が不良となっており、雨天や雨上がりに来られた来園者の方々には、迂回をして入場していただいている状況です。

「さいくう平安の杜」復元建物西側の区画道路については、当初の計画では、約130mの整備を行う予定でしたが、地権者の理解が得られないなどの事情が重なり、平成27年の完成時には、約70mの整備に留まりました。「平安の杜」周辺の施設回遊には、絶好の部分であったため、大変残念でしたが、現在はこの課題も解決されている状況です。

今後も明和町ならではの魅力ある観光資源を有効に活用し、誘客、滞在時間や消費拡大、アフターコロナのインバウンドに備えて、経年劣化が進む「歴史ロマン広場」の舗装、木橋、「齋宮跡 1/10 史跡全体模型」の音声ガイドなどの大規模修繕のご検討をよろしくお願いいたします。

また、「さいくう平安の杜」については、北側の排水問題のご検討と、西側の区画道路の再度のご検討をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

(知事)

先ほど、視察させていただきました。課題も結構あると感じました。歴史ロマン広場は、今の時代に、どれだけ多くの人に来てもらい、どうやって喜んでもらうか、どう活用するかを立ち止まって議論する必要があると思います。施設や設備が古くなっているし、音声ガイドもスマホの時代に本当に必要かどうかしっかり議論して改修に繋げていくべきであり、その方が手戻りもないため良いと思います。

「さいくう平安の杜」の排水問題も、実際、今日歩いてみてぬかるんでいるのもわかりましたし、整備が一旦止まっている区画道路についても、用地買収問題もすでに解決しているとのことなので、協議しながら進めていきたいと思っております。

設備が古くなっている中で、改修にあたりどうやって観光客を集めて、どう喜ばせられるかを、観光庁の力も借りながら、明和町と一緒にしっかり考えていきたいと思っております。

対話項目（3）「空の移動革命の推進」に関する連携について

（町長）

三重県では、社会におけるDXの推進の施策として、交通や観光、防災、生活等の様々な地域課題を解決し、地域における生活の質の向上を図るため、ドローン物流や「空飛ぶクルマ」の実証実験場の誘致等に取り組んでいただいているところですが、明和町においても、デジタル田園都市国家構想によるスマートシティの実現に向け、伊勢神宮やVISIONなどにアクセスし易い立地であるという利点を生かし、明和町内に「空飛ぶクルマ」の場外離発着場の誘致を検討しています。

「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」での実用化に向けた取り組みも加速する中、県全体の活性化のためにも、官民挙げて三重県全体で空の移動革命を推進していくことが必要であると考えています。

引き続き、実用化に向けた法律や規定・基準を早期に策定いただくよう国に要望していただくとともに、三重県の事業化構想に、明和町との連携した取り組みも検討していただくようお願いいたします。

（知事）

デジタル田園都市国家構想の採択が決まり、今後どのように発展していくか、対象市町と県も一緒によく話をしていき、進めていきたいと思えます。

空の移動革命については、まず、ドローンによる物流の推進ですが、現在、国土交通省と経済産業省が主催する「空の移動革命に向けた官民協議会」で、新たな離着陸場設置に関するワーキンググループが設置されました。空飛ぶクルマ実現の可能性については、大事なのは安全面への配慮であります。「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」において、安全面等が確保されれば、その先に進んでいくと思えます。そのような状況下で、今、真っ先に三重県や明和町が手を挙げると、実証実験が行われていくと思えます。そこで、もし最初に事故が起るようでは大変なことになります。まずは、国でいろいろ実験を重ねて、安全が確保される状況などを判断しながら進めていきたいと思えます。

空の移動革命については、これから人口が減っていく中で、生活を便利にするためドローンを使った輸送や、車についても、まずは自動運転であります。その先の空を使った移動も、今後、時間はかかりますが徐々に検討されていくと思えます。

対話項目（4）三重県地域連携部南部地域活性化局との連携について

（町長）

南三重地域では特に若者の転出超過が著しいため、その対策のひとつとして平成

31年に南三重地域就労対策協議会を6市10町で立ち上げ、様々な就労対策に取り組むとともに、平成27年より松阪市を中心市とする1市3町での松阪地域定住自立圏構想にて、人口流出の防止、都市からの人の流入の促進を行っています。

また、本年7月には、松阪以南の15市町で県立大学誘致に向けた要望活動を実施させていただくなど、地域活性化に向けた取り組みを南三重地域が一体となり進めているところです。

しかし、明和町を含め多気町、松阪市については、県の南部地域活性化局の所管範囲内でないため、南部地域活性化局の連携事業に参加できない状態となっています。

明和町では南部地域活性化局設立当時にも所管範囲に含めていただくようお願いした経緯もあり、一体的で効果的な事業が行えるよう、南部地域活性化局の所管範囲に含めていただくようよろしくお願いいたします。

(知事)

南部地域活性化局の所管範囲かどうかではなく、南部でまとまって議論しながら発展の可能性を探るのが大事だと思います。松阪市からも同じ内容の要望があり、話をしたところです。

明和町は、観光の核となる「斎王・斎宮跡」があり、大きな道路も活かして、賑わいを創出していくのが大事であります。併せて、移住者の誘致も取り組んでいただきたい。そして南の地域の発展には観光が重要でありますので、コロナ終息後のインバウンドを見越して、多くの方に来県していただけるように三重県も観光に力を入れていきます。

今後は、お客が来るのを待っているのではなく、特に南の地域は、積極的に発展の可能性を考えていかなければならないと思います。

また、南の地域の発展には、農林水産業にも力を入れていかなければいけません。県立大学の誘致について、明和町を含めた南の地域と四日市が候補地として手を挙げており、津市からも話をいただいています。現在、コストに見合った効果があるかなどの調査をしています。県外の例では、卒業生の県内就職率が2割しかいないところもあります。大学を作るのが大事なのか、就職するところを作るのが大事なのか、三重県に残ってもらう、戻ってきてもらうにはどうしたらいいか検討が必要であります。

三重県では、人口減少対策課を発足し、三重の売りは何なのかを考え、子育てしやすく女性が働ける環境を作るなど、人口流出に対して全体的な土台をこれからも議論し取り組んでいきます。

対話項目（5）道の駅整備に向けた支援について

（町長）

国道 23 号線は県の南北を縦断する主要国道であり、明和町も伊勢志摩への玄関口に位置しています。伊勢志摩など三重県南部は、新型コロナウイルス感染症の一定の終息後には観光客の増加も見込まれており、同時に国道 23 号線の交通量の増加も見込まれます。

また、津市内の国道 23 号線バイパスに「道の駅 津かわげ」がありますが、それ以南の国道 23 号線沿いには道の駅は無く、志摩市の「道の駅 伊勢志摩」まで空白地帯となっています。

明和町としては道の駅整備に向けた調査等を既に実施しており、関係機関とも調整を進めていきますが、国道利用客の利便性の向上、観光客増加への対応のほか、地域の活性化に向けて、明和町内の国道 23 号線沿いに「道の駅」が整備されるよう、三重県においてもご支援ご協力をお願いします。

国土交通省出身の知事の人脈をお借りし、ご紹介等いただきながら、明和町はどこにでも行かせていただきますので、ぜひ、知事も一緒にご協力をお願いいたします。

（知事）

国土交通省の担当との話では、採用の可能性は十分にあるとのこと。構想はある程度進んでいますので、三重県としても後押しさせていただきます。

三重河川国道事務所とはすでに話をしていると思いますが、中部地方整備局へ行っていただくのも大事だと思います。私からも局長に機会があればお話ししてみたいと思います。道の駅は、全国で年間、数件着手するとのことでもあります。そこに中部地方がないのであれば、光明も見えてくるのではと思います。

道の駅が出来れば、そこに人が滞在し、地域の食材や食べ物を買ってもらえる賑わいの空間ができますので、実現に向けて、三重県も協力しますので進めていってください。

対話項目（6）米価下落に対する支援等について

（町長）

明和町の多くの農家では、稲作を中心とした土地利用型農業が営まれており、基幹作物である水稲と麦・大豆を組み合わせた輪作体系が構築されつつあります。しかしながら、圃場によっては戦略作物の作付が困難なために、稲作をせざるをえない場合や、加工用米や新規需要米についても、この近辺での実需者が少ないために

販路の確保が難しいという実情から、なかなか容易に転作が進まないという状況が
ございます。

このように米に頼らざるを得ない状況の中で、昨年、新型コロナウイルスの影響
による国内の米需要の落ち込みから、令和3年産米の価格が、全国的に2～3割と
大幅に下落する事態が発生いたしました。明和町管内のJA多気郡においても、前
年の概算金12,400円から3年産米は9,700円と大幅に下落し、農業者からは将来
を不安視する声が多く上がっています。また、ロシア・ウクライナ問題に起因する
燃油・物価の高騰に加え、さらには肥料等の農業資材の高騰も発生するなど、この
厳しい状況の中で、農家は三重苦のような状況を強いられており、農業経営をとり
まく環境はより一層ひっ迫しています。

こうした状況の中、少しでも農家を支援するため、明和町では農業共済が提供す
る収入保険について、令和2年度からその保険料及び付加保険料の2分の1を明和
町で補助する「収入保険加入支援事業」を実施しており、昨年度、今年度と補助上
限額を20万円に引上げるなど、農業者の減収対策を強化して、支援を実施してい
ます。

また、今年度、3年産米の米価下落の影響を受けた町内稲作農家に対して、1俵
あたり300円の支援金を交付する「稲作農家応援支援事業」の準備をすすめている
ところです。

明和町も非常に厳しい財政状況にはありますが、国の交付金を活用しながら何と
か支援策を講じているものの、明和町単独の支援には限界がございます。とはいえ、
この苦境が続けば、離農者・耕作放棄地の増加など、県内の地域農業の崩壊にも繋
がりかねないものと考えています。

県内の他市町でも同様の米価下落対策を実施されている市町もある中で、現在の
厳しい状況を踏まえ、三重県におかれましても、米価下落に対する幅広い農業者支
援を実施いただきますようお願い申し上げます。

また、この燃料及び物価の高騰等に起因する経営環境の厳しさは、米農家のみならず、畜産業や漁業といった他の一次産業に携わる事業者全員が直面している問題
でありますことから、一次産業の事業者に対する幅広い支援の実施についても、ご
検討いただきますよう重ねてお願い申し上げます。

(知事)

燃料と飼料に関しては、三重県は令和4年6月補正予算で予算を確保しております。
飼料の購入については、国の補助に上乗せして支援します。

また、9月補正予算では、肥料価格についても市町・JAと連携し、国の補助に
上乗せし支援していきます。引き続き、円安に対する支援もしっかりしていきます。

米価の下落も続いており、市町やJAとも連携し、小麦等への転換推進も行って

きました。今、ウクライナ情勢や円安により、小麦への転換のチャンスではと考えていますし、米について販路拡大に取り組んでいきます。

水産物では、この6月に大阪の大手スーパー「万代」にお願いしたところ、三重県フェアを実施して、かなり売り上げもあったことから、今後も恒常的に続けていくこととしており、ある程度のサプライチェーンは形成できたと思っています。

伊勢茶についても、J A東海で販売していただいたり、ポケモンのミジュマルとのコラボ商品を作ったりして、販路拡大を行っています。

今後も、担当部局等とも相談し、他の販路開拓も検討し、市町と連携しながら取り組んでいきたいと思っておりますので、ご協力よろしく申し上げます。